

て、此外嬰兒を寢かすに寢臺の如きものもなき爲め、多く不潔なる板の間に寢かし居る由なれば、學校にては麥酒の明函の如きものを壞して、四本の足を附け、寢臺の製法を教授し學校にても之れを製作し、約五十錢位にて貧民に販賣し居るなり。

▲看護婦の巡回 母學校にては嬰兒ある家、若くは産婦ある家へは、時々看護婦を巡回せしめ、適當なる注意を與へ、毎週火曜金曜の兩日に母が小兒を連れて登校する際、校醫は簡易に小兒を診察し、病兒ある時は、相當なる醫師の診斷を受けしむるやう注意し居り、彼等貧民の食事は極めて粗末なれば營養不良のもの多く、産前三ヶ月、産後三ヶ月のものには學校よりは日本の十四錢位にて立派なる焼肉新鮮なる野菜等を供し居れりと云ふ。

保育叢話 (承前)

光藤 夫人

男女混合遊戯

男子は骨格選ふして如何にも男子らしく、女はつたかづらの大木にまとはるが如く、優にやさしく、其の爲男子は幼少の頃より力を練るの運動を多くし、女はなるたけ、やさしくしとやかにと思ふ餘りに、極幼少の頃でさへ、一寸遊戯をするにしても、お前は女だのにそんなお轉變な眞似をしてと、すぐ之を御壓する風があるかと思はれます。其れがやがて身體薄弱の基とはなりはしますまいか。

上流中流下流と區別をして見ますれば、上流の家庭に生立ちし女ほど、身體ケシヤになよなよと其の體格も自然と薄弱で御座いますが、中流下流となる程、强健な傾向があります、之は平素生活状態によることは無論で御座いますが、何れの社

會を通じても、十二三歳位になるまでは男女餘り區別を立てない方がよいかと存じます。男子が徒歩競争をやれば、女兒も其と同じに負けじ劣らじと一生懸命汗水たらしてかける。男兒が垣根に上れば女も跡を追ふて上り、木登をすれば共にやるといふ様に、何等束縛を與へないで共同の運動をさしておく方が、身體を鍛へるといふ方針に叶ふて、其の兒の將來の幸福ではありますまいか。或は異説があるかも知れませぬ。女子は女らしきといふは性來なり、しかるに木にも上る垣根を傳ふ、何等のお轉婆ぞ、何等の粗暴ぞと。私は思ひます幼男が木に登りてすべてのものを眼下に見て、其の快感を覺ゆると同じく、女兒も其の一寸困難なる事業をなして、衷心愉快に堪へざるものがあるのは、其の心理状態は同一で、男女によりて區別するの必要はないと思ひます。只々其の危険のある事はよく注意を與へなければなりません。之は男女によりて分つべきものではないので御座います。已に垣上り、屋根上り、をするのですから、其の他石投げ毬投げ相撲取り何等分つ所は御座い

ません。只快活を主として遊ばした方が女兒の爲かと思はれます。かゝる遊戯の中にも女兒の優美なる點は消滅するものでは御座いません。矢張女兒は女兒らしき性情を有して、其の上に身體の鍛練をされるのでありますから、まあ十歳位までは、私共は男子だからとて、女子だからとて、其の間に餘りキビキビした區別は立てず、只其の欲するまゝに、運動し活動さしておきます。兒童をして成丈下女下男に接せしめざる事すべての下女下男の品性の劣等なる事は誰しも知る所で其の筈で御座ります。それをしも我が家の一員となす様になりましたは、子供をして少しも之に接せしめないといふ事は出来ません。子供をして之に接せしめるといふ事は實に危険が多いので御座います。其の危険の多い下女等に我女兒を接せしめざるべからざる場合には母親は充分の注意を拂はなければなりません。決して少しでも、我身の安逸など

を貪る爲に面倒を見るを厭ふて子供を下女等に預ける様な事があつてはなりません。常に十二分の注意をなして之を監視し、子供の身心を害ふ如き事をなす場合には訓戒を加へなければなりません。一體子供といふものは、自分の行末を思ふて善行をすゝめ悪行をこらされるといふ父母或は教師よりか自分の思ふ儘の出来得るつまり我儘のなし得らるゝ下女下男の許にゆきたがる傾向を持ちはしまいかと存じます。私共の狭い経験ではどうも其の傾きがあるかと存じます。外様の預りし子供も宅の子供も皆どうも下女室によく入り込みて、いろんな話などするのを見受けれます。そこで私共はとも下女室に入るのを防ぎきれなければ、一層下女より教化せねばなるまいと存じます。そこで私は下女教育を始めました。勿論下女教育として、何もそう面倒なものでなくて、只平常に其の言行に氣をつけると一つは夜分二時間位下女に勉強の時間を與へておきます。讀書習字位にし

て時々修身のお話をして聞かせます、此の際を利うして、よく子供に對する心得をふきこむので御座います。一體無教育なる下女達は、何か一つ主人より言はれるにしても、叱られると思へば、腹を立て易く、教へられると思へば、少しも腹を立てない上に、喜んで改心します、そこで少し面倒でも私は大抵晝間いかゞはしい言行のありました事を覺えて置きました、夜分教へる時に何か他の話から引張り出して「今日晝かしらんお前はかゝる行がありましたがアはよくない、將來はこういふ風にするのです」と懇ろに教へてやりますれば、少しも腹を立てないで、其の行を改めます。まあ私共の様な貧乏では家庭教師など雇入れて思ふ存分立派な教化を施すといふ事も出来兼ねますから、種々考へまして、自己の心身を勞するを厭はず、少しづつでも面倒を見てやりました、よい方に導き、従つて子供に悪感化を與へるといふ事を避けて居ります。鼻水をたらせぬ工夫昔から鼻たらし子といへる諺さへありまして、子

供はよく鼻水をたらし、時には濃く青くなつて、太く鼻下にブラ〜として、口中にさへ入る事がありますが、子供は一向平氣なを見受ける事が御座います。少し氣をつけらるゝ家には、常に奇麗に鼻下を掃除して居らるゝ子供も多いので御座いますが、中にはづいぶん平氣で、一向親御も氣に止められない方もあるかの様見受けられます。身體の清潔は何處も同じで、鼻であらうが、眼であらうが、口であらうが、手であらうが、皆々清らかにしておくべきは無論ですが、殊にすべて身體の粘膜などは一層潔らかにしてやる必要があると思ひます。いづれの部でも不潔より種々の疾病を惹き起す事がありますが、殊に此の鼻を不潔にして、汗が出れば出しておくと、等閑にしておきますれば、慢性鼻加多兒となりて、終に粘膜が糜爛もするのは當然の結果で御座います。甚しくなりますと、出血などする事が御座います。

其の害が只鼻丈ならばまだしもで御座いますが、身體は箇々獨立のものでは御座いませんから、一

所悪くしますと、必ず他を害します。胃がわるければ、腦がわるくなると同じで、鼻孔が悪くなりますと、必ず腦と咽喉を損ひます。

私共の第三兒はよく咽喉を痛めます、少し時候の不順とか、今頃の様に向寒の折などには、必ず咽喉を害して、セキが大變出ます。夜は濕布をさせて癢につけば吸入をなし、大騒して其の治療につとめます。やつと治したかと思へば、又すぐコン〜とセキが出る。極幼少の時慢性の氣管支加多兒を疾ませし爲め、かくも度々咽喉の疾を憂ふるかを、寒さに向く時などは、殆んど吸入器を使用せぬ日はないといふ位で御座いましたが、不圖鼻孔をよく明けないといけなないといふ事を聞きしました。成程そうに違ひない、コン〜よくせきの出るのも一つは常に鼻孔が塞がつて居る其の爲めに相違ないと思ひました。

一體子供は鼻をかむ事が嫌いなものと見えて、ハシカチーフとか紙とか以て子供の面に向けるとすぐ横を向く、或は逃げるといふ方が多いかと存じます。私共の子供も矢張そして大きな子供はそう

でもありませんが、幼少な子はどうもいやがつて仕方がありません。そこで鼻汁を取るにも、只根からフン／＼と取除く事が出来ないで、只鼻孔にあつても外部にさへ出なければよい位な取方をする、格別子守や下女に預けておきますれば、ソレはソレは無責任な仕方をするのが多い。それで鼻孔は常に塞がつて居るといふ始末になり易い。其の爲め咽喉も損へば氣管も患ひ、つひには取かへしのかかぬ大患となるといふ事がないでもない。ソコで私は遅滞ながら其を了解しますと同時に、成丈子供に鼻汁をたらさぬ様奨勵します。其の仕方は大きな子には鼻孔の塞がる害を説き、幼少な子には、イ、子は鼻チンをやりますね位から、種手をかへ品をかへて、逃げさせぬ工夫をいたします。それから比較的咽喉を痛める事が減じました。

それから今一つ腦に影響します事は、遂に已に皆様も御存じで、大きな勉強盛りの書生が、鼻を害して記憶力が減じたとかいふ事は、新紙之を傳へ、雑誌之を報じて、今更らしく申し上げる程の事も

御座いませぬが、此の家庭にある幼児に影響する事も亦又甚しいので御座います。

私はよく子供が何も別に異状はないのに、やかましくねだつたり、何かしてむづかる事が御座いますのを見受けますが、大抵鼻孔が塞がつて居るに原因するのと知りまして、すぐ鼻孔を明けてやり、ますと快活になる事が御座います。

少しの注意や手数を厭ふて、鼻汁を孔にため、其の快活なる性情を不快に陥らしめ、甚しきは疾病の原因となりて、大事に至らしめる事さへないと限りませぬから、世の子を持たるゝ母親は、よく注意すべき事であらうと思ひます。殊に我が愛兒を人手に預けらるゝ方は、十二分の注意が肝要であらうと存じます。

家庭に於ける花壇

東京府農事試験場技手談

▲家庭に大仕掛の花壇は一寸六ヶ敷い、それと云